

母子保健分野で働くことを目指す学生の皆さんへ

母子保健分野で働くには



これからますます



が必要になるって
知っていますか？！

どうして？

いま日本には、約**288万人**※1の外国人が暮らしています。
その2/3は20～40代の子育て世代、もしくはこれから子どもを持つ可能性がある人たちです。

実際、日本全国で生まれる赤ちゃんの数は毎年減少していますが、両親もしくは一方の親が**外国籍の赤ちゃんは増えています**。神奈川県で生まれる18人に1人※2は外国につながる赤ちゃんです。

そのため、定期的に妊産婦とコミュニケーションをとっている産婦人科や小児科、役所の母子保健担当課などで働く人たちに、多文化対応力が求められています。

多文化対応力って？

多文化対応力は、多文化共生※3社会を実現できるように、国籍や民族の異なる人々の文化的な違いを認め、対等な関係を築くためのものです。外国人住民の方々が社会参加して、ともに生きていけるように、コミュニケーションを図ったり、コーディネーションを行うスキルです。

※1 在留外国人統計2020年6月（出入国在留管理庁）

※2 人口動態統計より算出（厚生労働省2019）

※3 多文化共生：「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」（総務省：多文化共生の推進に関する研究会報告書（2006年3月））



母子保健の現場では、支援者も外国人住民も困っています。

支援者側の気持ち



私は産婦人科で助産師をしています。

私が働く産婦人科では、妊婦さんの1割が外国人で日本語を理解できない人も多いです。助産師として伝えなくてはならないことは多いけれど、私は外国語もできないし、どう伝えていいかわかりません。

日本語ができるご家族を頼ってしまうこともありますが、出産の経過や産後の保健指導など細かい部分が本人にきちんと伝わっているか…。予約した妊婦健診に来ない人、妊娠糖尿病のリスクがあるのに体重増加を気にする様子もない人もいて心配です。

出産後に時間を問わずたくさんの親戚や友人が面会に来てしまうなど、入院のルールが伝わらなかつたり、退院した後、子育てがうまく行っているか気になることもあります。

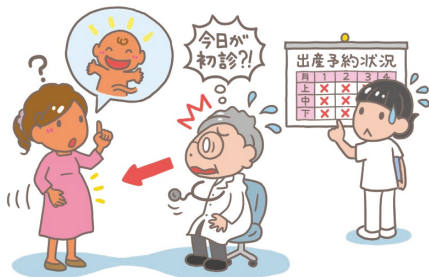
私は母子保健担当の保健師です。

最近私の担当地域では外国人の出産が増えていきます。保健師として子育てに関する情報を伝えたり、ママの困っていることを聞きたいのですが、細かい部分のやり取りができません。例えば母子手帳を渡しても、その活用方法についてうまく伝えられません。

事前に連絡が取れないので、約束なしでお宅を訪問することもあります。自分の肩書や訪問の目的を伝えられず不審がられたこともあります。室内なのに、赤ちゃんに厚着をさせていたり、衣服の調整や栄養面、衛生面の考え方にも文化の違いを感じています。

また、慣れない子育てで疲れているのかなというママもいて、見守り続けたいのですが、乳幼児健診さえ来ないなど、なかなか関わりが難しいです。

外国人妊産婦の気持ち



母国では、分娩予約や妊婦検診が少ないんです。

お腹が大きくなってから病院に行ったら驚かれました。でも、母国では妊娠初期に分娩予約をして定期的に検診を受けて出産に備えることは珍しいのです。日本では妊婦検診が14回もあって驚きました。

妊婦健診の回数の基準は国によって様々。WHO（世界保健機関）は妊婦健診を8回行うよう推奨していますが、（その国の医療事情などにより）実施できていない国や地域も多いのが現状です。

夫に伝えられても… 「破水」なんて言葉知らない。

夫のほうが日本語ができるので、病院では夫が説明を受けますが、実は理解していないこともあり、私に伝わらないことも多いです。例えば「破水」。実際、破水したときに、私は尿漏れと思い、恥ずかしくて誰にも言えず、次の日健診で病院に行って初めて危険な状態と分かりました。

医療に関わることは、家族や知人の通訳では十分でないこともあります。必要に応じて医療通訳を利用すると安心です。まずは、妊婦自身に話しかけることを心掛けましょう。



多文化対応の上手な支援者は、こんな工夫をしています。



母子訪問に行く際に
言語プレートを準備



相手の文化を聞きつつ、
日本のやり方を伝える



大切な情報を伝えたり聴き
とったりする際は、正式な
通訳者に依頼する

詳しくは「外国人住民の妊娠から子育てを支えるガイドブック」をご確認ください。
オンラインでも読むことができます。(P4にガイドブックの紹介があります。)

多文化対応って何からはじめたらいい
のかわからない。どうしたらいいの？

大丈夫！
学生のうちから準備できることは
たくさんありますよ。

言葉や文化

Q. 外国語ができないと対応できないの？

A. いえ、日本語だけでも十分対応できます。
ただし、日本人に話す日本語だと、伝わりにくい場合も多いので「やさしい日本語」を使えるようになると、日本語がまだあまり理解できない外国人にもわかりやすく伝えることができます。
また、言葉以外のコミュニケーションも実は伝えるうえで大切。
外国人住民の方との信頼関係を作るためには笑顔やジェスチャーも大切な役割を果たします。
医療現場などにおいては必要に応じて医療通訳を使うようにすると誤解がなく正確に伝わります。

Q. 日本以外の文化がよくわかりません。どうしたらいい？

A. 留学生との交流や海外での異文化体験などにより、異なる文化を持つ人とのコミュニケーションがしやすくなる方は多いです。語学学習は、外国語でのコミュニケーションの難しさを身をもって知り、在住外国人の方々の気持ちを理解するよい機会です。日本の中にも海外にルーツを持つ人がたくさん住んでいるので、学生のうちから、異なる文化を持つ友人をつくることもよいです。学生の時の経験が、社会人になったときに様々な文化の人と対応する際の力になるでしょう。

情報や連携

Q. どこに情報があるのかわかりません。

A. 地域の国際交流協会や様々な支援機関が多文化共生について情報発信しています。多言語相談窓口を開設している場所も多いです。
今後、あなたが働き「多文化対応」をする際に連携ができるかもしれないので、一度訪ねてみるとよいと思います。
また、(公財)かながわ国際交流財団での「外国人住民のための子育て支援サイト」で母子保健や子育てに関わる支援者向けの情報を発信しています。参考にいただけると嬉しいです。



イラスト：たかえみちこ

支援者への情報

外国人住民の妊娠から子育てを支えるガイドブック 母子保健・子育て支援でできる多文化共生の4つのカギ



母子保健や子育て支援の業務で外国人住民対応をどうするかを悩んだときに参考にできる一冊。

初歩的なステップをわかりやすくイラストと事例などを用いて解説している。



外国人住民の妊娠から子育てを支える事例集 母子手帳交付から外国人住民支援をスタート！



どんな支援ができるのか、実際の事例を見ながら参考にできる事例集。母子手帳交付時は外国人住民との支援のスタートに最適な時なので、その時にどう対応できるかはとても大切。



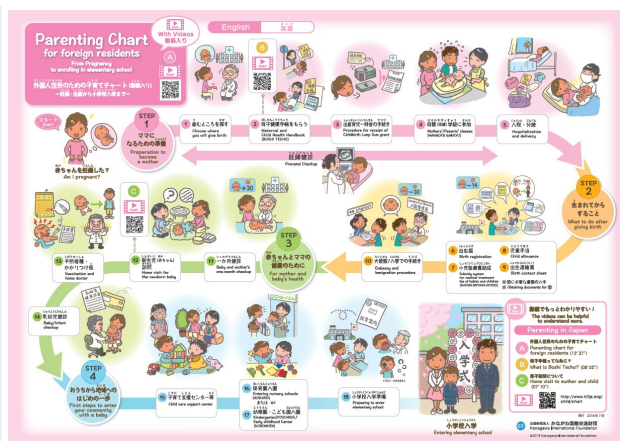
支援者と外国人住民と一緒に確認できるもの

多言語資料

外国人住民のための子育てチャート ～妊娠・出産から小学校入学まで～

日本語と外国語の併記で日本での妊娠から子育ての流れを示したチャート。（11言語対応）

中国語／タガログ語／ポルトガル語／スペイン語／ベトナム語／英語／ネパール語／タイ語／韓国・朝鮮語／インドネシア語／やさしい日本語



多言語医療問診票

産婦人科・小児科を含む、11診療科の間診票が18言語（日本語併記）で用意しています。

中国語／韓国・朝鮮語／タガログ語／ポルトガル語／スペイン語／ベトナム語／英語／タイ語／インドネシア語／カンボジア語／ネパール語／ラオス語／ドイツ語／ロシア語／フランス語／ペルシア語／アラビア語／クロアチア語

www.kifjp.org/medical/



外国人住民のための子育て支援サイト
www.kifjp.org/child



公益財団法人 かながわ国際交流財団
Kanagawa International Foundation